

有機物の有効活用と局所施肥によるリン酸施肥量の削減に関する指針を作成しました

背景

- 近年のリン酸肥料価格が高止まり、農家経営を圧迫。
- 寒冷地である北海道では、有機物中のリン酸による作物生育に与える効果（肥効）が過小評価されていました。

リン酸資源は
100% 輸入に依存

有機物を
有効利用したい

成果

1 家畜ふん尿たい肥に含まれるリン酸の肥効を評価

たい肥	品目	リン酸の肥効率 % (対化学肥料)
牛ふん	てんさい	70~100
	たまねぎ	60~100
	にんじん	50~60
	トマト	100
鶏ふん	たまねぎ	60
	にんじん	65

- たい肥に含まれるリン酸に肥料効果のあることを確認し、たい肥施用時の減肥指針を策定

2 局所施肥技術を開発して畑でのリン酸施肥量を削減



- たまねぎの他、トマト、キャベツでも育苗土への施用で、畑での施肥量を削減
- 施肥量の削減効果は 5~20 kg/10a

3 てんさいのリン酸施肥量を大幅に見直し



- 道内の移植てんさい（栽培面積は5万5千ヘクタール）で適用
- 平成27年度には、道内で流通する肥料銘柄も大幅に変更される予定

期待される効果

- リン酸の最大削減可能量は、全道で見ると、たい肥評価により 5,240 t、局所施肥技術で 7,320 t。
- 農業経営における肥料費の大幅削減に貢献。輸入肥料の価格上昇の影響を軽減。